

51. 乱視用ソフトコンタクトレンズ処方 (適応・検査)

東原尚代
ひがしはら内科眼科クリニック
京都府立医科大学眼科学教室

●はじめに

2003年に7%だった日本のトーリックソフトコンタクトレンズ(SCL)処方率は2016年に13%とわずかに増加したが(図1)¹⁾、諸外国に比して低いのが現状である²⁾。実際、弱度乱視のある患者でも球面SCLを処方されることが多く、その背景には、トーリックSCL処方の経験が少ないゆえに処方がむずかしいという先入観や、過去にうまくいかなかった苦い経験などがあるように思う。適切な乱視矯正は良好な視力が得られるだけでなく、眼精疲労の改善など見え方の質の向上が期待できる。乱視用SCL処方について2回に分けて解説するが、第1回目となる今回はトーリックSCLの適応の見きわめと検査の注意点について解説する。

●トーリックSCLの適応

乱視は1.0~2.5Dまでがよい適応で、まずは処方しやすい直乱視からトライするとよい。倒乱視や斜乱視になると少し処方の難易度が上がる。3D以上の乱視や不正乱視ではハードコンタクトレンズのほうが矯正力は優れる。乱視の未矯正で眼精疲労のある症例はよい適応である。日常生活で問題なく見えているか症状を問診して、乱視の有無を確認する「乱視チェックカード」は大変に便利である(図2)。

●トーリックSCL処方時の検査と注意点

通常、オートレフケラトメーターでは近視は強く出ますが、乱視度数と軸は比較的信頼できる。まず、眼鏡矯正視力の測定では適正な乱視矯正を心がける。乱視があるにもかかわらず球面SCLを処方された症例では、乱視の未矯正を補うように球面度数が強めに処方されている。最初のSCL選択をまちがうと、その後の検診において患者が見えにくいと訴えた際、球面レンズでさらなる追加補正を行ってしまう結果、近視の過矯正となるリスクが高い。また、眼科検査室の明るい条件下において球面レンズのみの補正で矯正視力(1.0)が得られても、

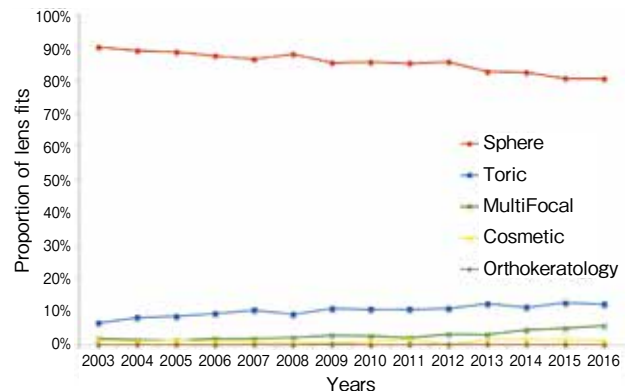


図1 日本における各種ソフトコンタクトレンズ処方比率
(文献1より引用)

眼科医や検査員はその結果を過信してはいけない。逆に、患者自身も矯正視力(1.0)と聞くと「自分は見えている」と思い込んでしまう。日常生活では検査室より悪い条件でもものを見ていることが多く、また時間帯によって見え方は変化するため、日常生活の見え方は一般視力検査では評価しきれない。Watanabeらは健康人に意図的に乱視を負荷した場合、直乱視0.5D以上、倒乱視1.0D以上で実用視力が有意に低下すること、また、1.0Dの乱視負荷で96%の症例は視力1.0を維持できたが、実用視力を維持できる症例は直乱視で50%、倒乱視で62%に低下したことを報告している³⁾。とくに、若い世代では調節力が旺盛なため、球面レンズだけで見かけ上は良好な矯正視力が出やすい。乱視の未矯正では球面レンズで近視の過矯正をつくることとなり、遠方視時からすでに調節力を強いられる結果、勉強中など近業時には調節の負荷がさらに増えてしまう。したがって、最初の段階で完全屈折矯正を行うことが肝要である。

●トーリックSCLの勧め方

保険適用ではないが、筆者はトポグラフィを撮影し、写真で乱視の有無を示しながらトーリックSCLの必要性について患者に説いている。すでに他院で球面SCLを処方されているケースでは、1日の終わりでの見

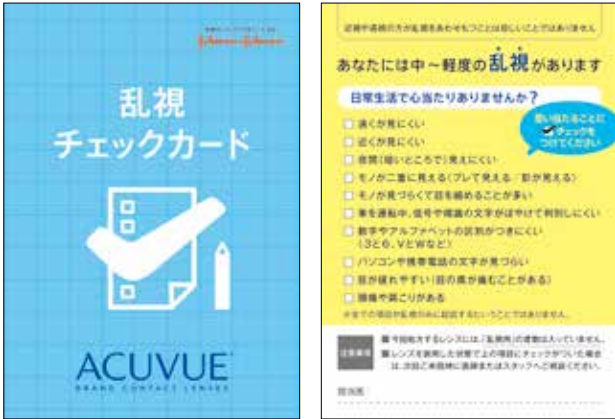


図2 乱視チェックカード
(ジョンソンエンドジョンソンより提供)

見え方や細かい文字が見づらくないかなど、具体的に問診し、見え方について疲れなどさまざまな症状を聞き出す努力をする。また、検査時に直乱視では Landolt 環が横に、倒乱視では縦に伸びて見えなかったかなど具体的に質問する(図3)。球面 SCL で自覚症状が強くなかった患者も、実際にトーリック SCL を試すと「楽に見える」「手元が見やすくなった」など、それまで自覚しなかった症状に気づくことも多い。トーリック SCL は価格が高くなるが、見え方の質が改善するとその価値を理解されることが多い。

●おわりに

患者は自分で乱視に気づいてトーリック SCL の処方希望するわけではない。われわれ眼科医が乱視を正しく評価し、積極的にトーリック SCL を選択して適切な乱視矯正を心がけなければならない。その一方で、患者は価格を気にされるため、高価な SCL を押し売りされるという印象を与えないよう、丁寧な問診と検査で問題点を引き出し、乱視矯正の必要性を理解してもらうことが大切である。今回は、トーリック SCL のレンズ選択とフィッティングをテーマに解説する予定である。

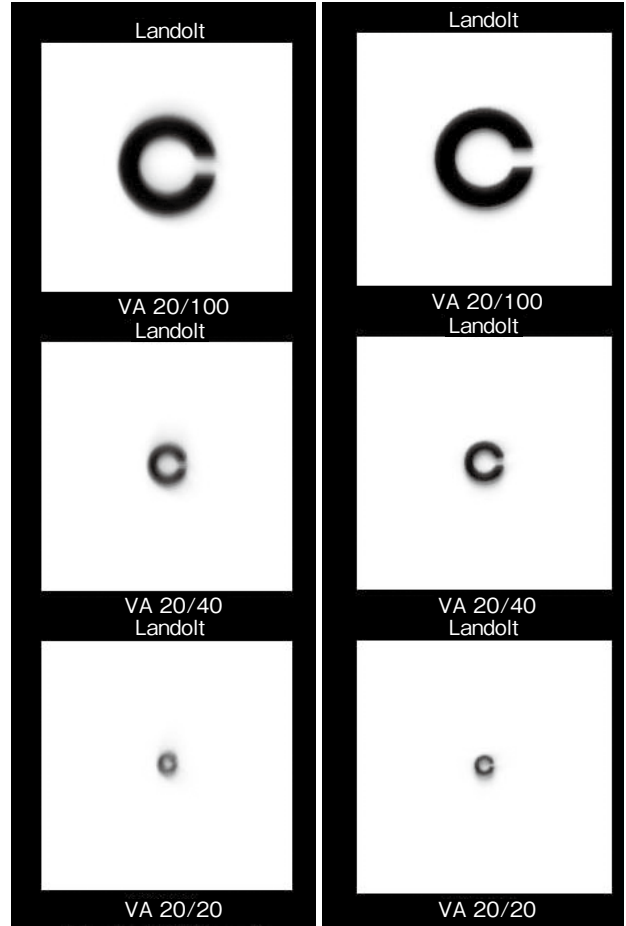


図3 トーリック SCL 装用前後の見え方の変化
Wave Front Analyzer にて計測。左：弱度乱視を球面 SCL で矯正したとき。Landolt 環は縦ににじんでいる。右：弱度乱視をトーリック SCL で矯正したとき。Landolt 環はより鮮明に見える。

文 献

- 1) Itoi M, Itoi M, Efron N et al : Trends in contact lens prescribing in Japan (2003-2016). *Cont Lens Anterior Eye* 41 : 369-376, 2018
- 2) Morgan PB, Efron N, Woods CA ; International Contact Lens Prescribing Survey Consortium : An international survey of toric contact lens prescribing. *Eye Contact Lens* 39 : 132-137, 2013
- 3) Watanabe K, Negishi K, Kawai M et al : Effect of experimentally induced astigmatism on functional, conventional, and low-contrast visual acuity. *J Refract Surg* 29 : 19-24, 2013